

氏名	神崎洋光
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5068 号
学位授与の日付	平成26年12月31日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Comprehensive Investigation of Area Gastricae Pattern in Gastric Corpus using Magnifying Narrow Band Imaging Endoscopy in Patients with Chronic Atrophic Fundic Gastritis (拡大併用狭帯域光観察を用いた胃体部における慢性萎縮性胃炎の胃小区パターンの包括的検討)
--------	---

論文審査委員	教授 藤原 俊義 教授 柳井 広之 准教授 佐藤 修平
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

胃バリウム検査では胃小区パターンを検討することが慢性萎縮性胃炎の評価につながる事が示唆されている。慢性萎縮性胃炎の内視鏡的な評価に関して胃小区パターンについて言及した報告はない。本研究では拡大併用狭帯域光観察を用いて慢性萎縮性胃炎の胃小区パターン、拡大内視鏡像、組織像について検討を行った。

慢性萎縮性胃炎を有する50症例の患者に対して胃体部小彎の内視鏡像を検討した。慢性萎縮性胃炎の広がりには自家蛍光内視鏡を用いて評価した。胃小区パターンは色素内視鏡像から胃小区、胃小区間溝の割合を評価し、微細表面構造は拡大併用狭帯域光観察から、腺窩上皮型、溝型へと独自に分類した。

慢性萎縮性胃炎の広がりが狭い症例では多角形の胃小区が狭い胃小区間溝によって分けられていた。広がりが広い症例では胃小区は小さくなり、胃小区間溝が増大していた。胃小区内の微細表面構造は腺窩上皮型をしており、一方で胃小区間溝は溝型を呈していた。溝型の粘膜は腺窩上皮型の粘膜に比べて組織学的に萎縮、腸上皮化生が高度であった。

慢性萎縮性胃炎が広がるにつれて多巢性に溝型の微細粘膜構造を持つ萎縮、腸上皮化生の強い粘膜が胃小区間溝として出現し、その領域を増加させていくことが推測された。我々の発見は萎縮性胃炎の発現・進展形式の理解に役立つと考えられる。

論文審査結果の要旨

本研究は、慢性萎縮性胃炎を有する50症例を対象に拡大併用狭帯域光観察を行い、萎縮性胃炎の進展形式の解明を試みた報告である。

慢性萎縮性胃炎が広がるとともに、多角形の胃小区の縮小と胃小区間溝の増大がみられ、微細表面構造では胃小区内は腺窩上皮型を、また胃小区間溝は溝型を呈していた。組織学的には、腺窩上皮型の粘膜に比べて溝型粘膜の萎縮、腸上皮化生が高度であった。

萎縮性胃炎の広がり、胃小区パターン、微細表面構造、および組織像の関係性が示された点で、本研究は価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。